

一 般 質 問

Q 「高齢者日常生活サポート事業」運営状況は

藤 田 貢

一、町長が所信表明した主な推進すべき7つの事項のうち高齢者問題について、本年7月1日からサービスが開始された23年度の目玉事業でもある「高齢者日常生活サポート事業」の各地区における運営状況と今後の事業展開について伺う。

A 利用を促進するPRに努めたい

町 長 関 次 雄

一、9月15日現在で、小平・達布・鬼鹿地区を合わせて延べ79人（実人数26人）の利用となっており、利用形態は老人クラブ等への出席が約半数、次いで通院となっている。

利用を促進するPRについては、老人クラブでの説明会や広報等により周知をさせていただいているが、今後、気象条件が悪化する日が増えることから利用も増加するものと考えている。事業実施にあたっては、登録制での運行や地域運行業者との協業についてもご意見をいただき、今後もそれらの推移を見ながら運行に努めたい。

また、本町は過疎化が進行する中、地域交通体系を見直す時期に来ていると考え、地域の特性、実情に最適な移動手段が提供できるよう全町的な交通確保の再構築のための調査を行った。

Q 学校再編計画はあるのか

山 内 裕

一、今現在、学校再編計画はあるのか。あるならばその内容と予算に計上されている鬼鹿中学校の耐力度調査費420万円は再編計画に沿っているものなのか伺う。

二、公の施設の民間委託が相当進んでいるが、委託に当たったの判断基準はあるのか。

「ゆつたりかん」は、指定管理者・直営と両スタイルで運営を行ってきたが、その結果をどう判断しているか。

A 早期に方向性を示す

教 育 長 横 田 達 男

一、鬼鹿地区における学校再編計画の決定したものはないが、鬼鹿中学校は生徒数の減少により、平成27年度に複式となることが予測され、小平中学校と統合しようという基本的な方向性は持っている。早期に教育委員会としての方向性を示し、地域に理解いただけるよう進めたい。

町 長 関 次 雄

一、耐力度調査は再編の方向性が決まれば、小・中学校を問わない。小学校をコンパクトな新校舎との考えも研究したい。

二、基本的には住民サービスの向上、ニーズの効果的対応、行政コストの縮減などが判断基準になると考えるが、再度、各施設をどのような条件や方法で運営していくか早期に作業を進めた。「ゆつたりかん」の運営は、指定管理者か直営かはまだ判断できないが、どちらのスタイルでも町民にとって良い方向を考えると、来年度からの運営がスムーズに行くよう環境を整えたい。